

1. 部局としてのアウトソーシングの方針（重視する効果や、大きな課題などを主題にしてください）		
・民間主導が望ましいものや、民間に任せられるものはすべてアウトソーシング 県がイニシアティブを取って進めてきた木材の販売体制を民間主導に転換 業務をスリム化し、新生産システムや間伐の推進に重点化		
2. これまでの状況（スリム化分を除く）		
現実施計画でのアウトソーシング率		5.3%
H17～18 発注済件数	アウトソーシング推進関連	15件
	地域版アウトソーシング	0件
H19 予算件数	アウトソーシング推進関連	18件
	地域版アウトソーシング	0件
特記事項（課題の克服など）		現状では、政策を進めるうえで、補助事業による支援という手法が中心となっていることから、補助金交付に関連する事務量が相当多い。当面国庫補助金は難しいとしても、県単補助に関して、補助金が果たしている機能を別の形に変えて、又は補助金の交付事務をアウトソーシングするといった発想が必要。
3. 重点的に取り組むアウトソーシング業務とその概要		
(1) 取り組む業務（又は分野）		
森林計画データ入力等委託業務（森林整備の推進） 森林情報管理システムの所有者等の情報の精度を向上することによって、間伐等の森林整備の促進を図るため、データの更新作業をアウトソーシングして集中的に行う		
(2) 当面の課題		
(3) 進め方や年次の計画など		
現在、18年度施業までの未整備のデータが3万2千件有り、単年度での解消が難しいため、19、20年の2カ年で解消を目指す。 ・19年度施業データは、20年度早期に発注し、同様の整備を行う ・20年度施業以降のデータについては、造林補助金システムとGISシステムとのデータ変換システムの構築を含め、作業量の軽減を検討する。		